

平成29(2017)年6月1日

高等学校長・中等教育学校長 殿

神奈川県高等学校教科研究会
会 長 井坂 秀一
同 社 会 科 部 会
部 会 長 大沢 利郎
理 事 長 宮崎 吾郎
歴史分科会長 澤野 理
(公印省略)

社会科部会歴史分科会高大連携講座 ～「近世のヨーロッパをどのように学ぶか」への参加について（依頼）

新緑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当部会の活動にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、歴史分科会では生徒の学力向上と教員の授業力向上を目的とした夏季研修講座を次のとおり開催いたします。午前中は、難関大学をめざす公立・私立の生徒に対する授業、午後は、その授業についての研究協議です。つきましては、校務ご多忙の折、誠に恐縮とは存じますが、貴校の職員の出張につきまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。また受講希望生徒がございましたら、担当までご連絡いただければ幸いです。

1 趣旨

近年の高大連携は、高校の教科・科目の内容にも大きく関与するようになってきました。当分科会が平成19(2007)年より始めた高大連携講座は、生徒・教員の双方から高い評価をいただき、また、平成23(2011)年からはNPO 神奈川県歴史教育研究会の協賛をいただき講座の充実につとめてまいりました。おかげさまで、ここ2年の講座では3日間で延べ300人の生徒・教員に参加いただいております。アジア史の新たな視点を学べる講座として、年ごとに有名となってきました当講座ですが、今年度は、「近世のヨーロッパをどのように学ぶか」というテーマ設定で、新たな分野に挑戦します。

近世のヨーロッパは、国民国家の原型が形成され始めた時代・アジア世界との交流が深化した時代等々、現代の社会や文化を考える際に無視することのできない時代です。この分野は、古くから研究の蓄積が厚いことで知られていますが、近年は新たな視点に立脚した研究成果も現れ、大学入試の場面においても(日本史・世界史ともに)新傾向の出題が見られるようになりました。そのため、この分野の新たな視点による教材化は、必ずしも充分なものではないという現状です。大学入試問題によく出題され、通常の授業では時間不足等で手薄になりがちな分野をどのように学習するかということ、授業実践や、最近の学会の事情などを踏まえながら大学側と研修を深める意義は大きいと考えます。

2 内容

(1)場所 横浜市立横浜商業高等学校(〒232-0006 横浜市南区南太田町2-30-1)

(2)テーマおよび講師

7月31日(月)「大航海時代のイベリア半島とアジア・日本」

講師 岡 美穂子(東京大学史料編纂所) 徳原 拓哉(県立鶴見高等学校)

8月1日(火)「北欧の近世国家」

講師 古谷 大輔(大阪大学) 福本 淳(栄光学園高等学校)

8月2日(水)「近世のイギリス」

講師 中村 武司(弘前大学) 真木 康彦(城北高等学校)

* 桃木至朗先生(大阪大学)には、3日間を通じてのコーディネーターをお務めいただきます。

(3)時程(3日間共通)

9:30~10:30	高等学校教員による授業
10:40~12:10	大学教員による授業
12:10~12:30	個別質問時間
13:30~15:00	当日の授業実践についての研究協議
15:10~17:00	当日のテーマについての研究協議

* 午後の研究協議は、教員対象です。1日のみの参加も歓迎いたします。奮ってご参加ください。

・派遣旅費につきましては、誠に恐縮ですが、貴校にてご負担くださいますようお願い申し上げます。

以上

問い合わせ先

県立寒川高等学校 澤野 理

TEL 0467-74-7699 FAX 0467-74-9012

E-mail: o-sawano@open-kanagawa.ed.jp